

# 中国成都市における大型スーパーマーケットの青果物調達

## ルート変遷に関する考察

共生農業資源経済学講座 食料農業市場学分野  
肖 倩

### [背景と目的]

中国では1978年の改革開放政策を実施して以来、食品安全問題が多発している。中国食品の安全問題については、国内だけではなく、海外にも注目されてきた。特に、2008年の中国国内に起きた「三鹿奶粉三聚氰胺事件」では1500人程度の児童が入院し、更に10数人の児童が死亡するなど深刻な被害をもたらしている。一方、中国では、経済発展が顕著に見られ、中国国民の生活水準と健康意識を向上すると共に、食料品需要が量的から質的へと大きく変化しつつある。

こうしたことを背景に、中国では各地において大型スーパーの進出が増加している。大型スーパーは日常雑貨を取り扱うほか、青果物を扱う店舗が一般的である。多くの消費者が訪れている。今後、消費者の食品安全の意識の高まりに伴い、大型スーパーによる青果物調達行動の変化が注目される。

中国食品安全問題に関する研究では食品認証制度と運営の仕組み、更に認証農産物の生産・販売の実態、問題が解明されている。中国スーパーの青果物調達行動に関する研究ではスーパーを中心とした生鮮食品流通の特徴等が解明されているが、食品安全問題を背景としたスーパーの生鮮食料品調達行動の変化要因が解明されていない。

### [課題]

本論文では、中国成都市を事例に、大手小売資本の生鮮食料品調達行動を分析し、その変化要因を明らかにすることを課題とする。

### [方法]

本論文では課題に接近するため、まず分析事例地域となる成都市における青果物の需要変化とスーパー進出状況を確認し、本論文の分析事例として、成都市において中国国内小売資本の好又多（事例1）であり、フランス系小売資本であるカルフル（事例2）と日系小売資本であるイトーヨーカ堂（事例3）以上3社を取り上げる。

次に、本論文で分析事例となる3社への聞き取り調査から、成都市における大型スーパーマーケットの青果物調達行動を考察する。

### [考察及び結論]

分析事例となる大手小売資本3社への聞き取り調査により、3社青果物の調達行動における卸売市場の経由率が減少し、卸売市場以外の調達が増加している。青果物調達ルートの変化要因とは事例1と事例2の場合、価格を最優先し、事例3の場合は品質を最優先した行動の結果である。このことから、大手小売資本は商品調達の第一要因（価格重視か、品質重視か）が異なっているものの、食品安全を考慮しながら独自の商品調達ルートを開拓しつつあることが解明された。